



## ● 多文化共生社会の実現を目指して ～外国人にも選ばれるまち、とまこまいに～ —— 北海道苫小牧市総合政策部未来創造戦略室

### 苫小牧市の現況

苫小牧市には現在、約1,800人の外国人市民が暮らししており、これは全体人口の1%を超えています。また、過去10年間でその人数は3倍以上に増加しており、今後も引き続き増加が見込まれています。

外国人市民の国籍や在留資格も多様化する中、外国人材が活躍できる環境づくりに加え、外国人と日本人が地域の生活者として「日常的に」共生する社会の実現が求められています。このような社会の在り方を示すため、当市では2025年3月に「苫小牧市多文化共生指針」を策定し、多文化共生の重要性を明確にするとともに、今後、自然体で取り組むべき施策の方向性を示したものです。

### 苫小牧市国際交流サロン ぐる～りワールド

当市では、外国人支援と国際交流の拠点として、市役所庁舎内に「国際交流サロンぐる～りワールド」を設置しています。

当サロンで実施する地域日本語教室には現在、約20人の学習者が登録しており、ボランティア講師による日本語指導が行われています。また、外国人相談窓口では、外国人市民やその関係者から寄せられる生活全般の相談に対応し、市役所での手続きなどのサポートを行っています。

サロンの運営には、CIR（国際交流員）をはじめ、外国籍の職員やボランティアなど、多様な人材がそれぞれの経験や強みを生かしながら支援に携わっています。

### 苫小牧市の CIR

当市には現在、アメリカ国籍の CIR が 1 人在籍して

おり、さまざまな場で活躍しています。

当市で初めて CIR を任用したのは 2019 年で、現在在籍しているポーグ・マックス CIR は、2025 年 8 月に着任した 3 人目の CIR です。マックス CIR はアメリカのワシントン州出身で、CIR としての勤務は今回が初めてとなります。

CIR の主な業務は、国際交流サロンにおける相談対応をはじめ、異文化理解や国際交流を促進するイベントやワークショップの企画・運営、学校や団体などへの出前講座です。そのほか、庁内での通訳・翻訳、姉妹都市をはじめとする海外との連絡調整など、市の国際交流の懸け橋としても活躍しています。

市役所内にとどまらず、学校や市民活動の場にも積極的に足を運び、市民との交流を通じて多文化共生の輪を広げています。



カーリング体験の通訳をするマックス CIR（右）

### CIR の活動

#### (1) これまでの主な活動

CIR が特技や経験を生かして行ってきた取り組みをいくつか紹介します。

#### ① EiGO! キャンプ

市内の子どもたちを対象に、英語で交流しながらゲー

ムやアクティビティー、料理などを楽しむ日帰りキャンプを実施しました。

## ②日本文化ふれあい会

外国人市民を対象に、書道や茶道、着物体験など、日本の伝統文化に触れるイベントを開催しました。

## ③外国文化体験イベント

市民を対象に、イースターのエッグハントやクリスマス会、バレンタインカード作りなどの、季節の行事を通じて異文化体験ができるイベントを開催しました。

### (2) 現在の活動

現在、マックス CIR が取り組んでいる活動をご紹介します。

イベント企画や講師としての仕事は初挑戦ですが、職員と相談しながら工夫を重ねており、登場するたびに子どもから大人まで大人気。市内のあらゆる場面で笑顔を生み出しながら、活躍の幅を着実に広げています。

## ①多文化共生朝活 English

多文化共生をテーマにした英会話イベントを開催しました。朝、通勤・通学途中に立ち寄りやすいカフェで、自己研鑽の時間として過ごしていただける場を提供しました。



多文化共生朝活 English の様子

## ②マックスの American Day

市内の児童センターで、アメリカの文化や故郷について紹介し、子どもたちと交流する出前講座を実施しました。今後も児童センターを訪れ、市内の子どもたちと触れ合う機会を創出する予定です。

## ③未来創造こども会議 “多文化共生リーダーになろう！”

青少年育成部局が実施する事業の一環として、子ども向けの「多文化共生」に関するワークショップに、外国人市民代表として参加しました。自身の実体験を共有し、

子どもたちと共に多文化共生の実現に向けた、学校などでの取り組みを考えました。



未来創造こども会議のワークショップの様子

## ④備えるフェスタ in とまこまい

防災イベントで「外国人と一緒に防災」をテーマにしたブースを出展し、スタッフとして参加しました。「やさしい日本語」を使ったロールプレイなどを行い、市民とともに外国人の視点から防災を考えました。

## CIR とともに歩む苦小牧

当市では、外国人市民が増える中で、誰もが安心して暮らせる環境づくりが重要なテーマとなっています。生活相談や日本語支援といった体制整備はもとより、外国人市民には地域のルールやマナーを、日本人市民には異文化への理解を深める機会を広げていくことが求められています。多文化共生の取り組みは、一方的な支援ではなく、お互いを知り、理解し合う双方向のプロセスだと考えています。

マックス CIR は、まさにその懸け橋として、市民と行政、そして異なる文化をつなぐ存在です。今後も市役所内外の現場に積極的に飛び込んで、幅広い世代と関わりながら、まちに新しい風を届けてくれることを期待しています。

CIR の活動の幅が広がるほど、まちの可能性も確実に広がっているように感じます。今後も「外国人にも日本人にも選ばれるまち、とまこまい」を目指し、誰もが活躍できる未来を市民とともにつくっていきたいと考えています。